教育講演 5

座長：八木 信一（富山大学医学部小児科）

キズ・キズ跡治療における形成外科の技術とそれらを駆使した先天異常の治療

清川 兼輔 [1,2]

[1] 久留米大学　医学部　形成外科・顎顔面外科学講座、[2] 一般社団法人日本形成外科学会　理事長

学校で生徒がケガ（すりキズ、きりキズなど）をした時、幼稚園や保育園の先生方はどう対処されていますか？近年、子どもがケガをした後にキズ跡が残ると様々な問題が生じやすく、特に顔面などの露出部ではその傾向が顕著です。先生方もその点について非常に危惧されていることでしょう。形成外科医は、キズ・キズ跡治療の専門家（創傷外科医）ですが、先生方を始め多くの一般の方々がまだそのことを御存知ありません。子ども達にケガはつきものですので、ケガをできるだけ早く治し、キズ跡をできるだけ目立たなくすることが肝要です。今回は、まず私ども形成外科がキズ・キズ跡治療の専門家であることを皆様方に知っていただくことが第一の目的です。

そして、もう一つの目的はそれらの技術を駆使して様々な先天異常（口唇裂や小耳症など）を私どもがどのように治療しているかを知っていただくことです。先天異常を持って生まれた子どもさんは、生来ハンデを背負って生きていくだけでなく、多くがいじめなどの苦痛を受けることになります。先生方もそのような子どもさんを御覧になったことがあるかと思います。私ども形成外科は、その技術を駆使してこのような患者さん達をできるだけ正常な状態になるように治療しています。先生方には是非そのことも知っていただき、私ども形成外科への受診を勧めていただければと存じます。そして、本講演が子どもさんや先生方の生活の質（Quality of Life）の向上のお役に立てれば幸甚です。

Presented by Medical*Online